

平成 24 年 度 事 業 報 告

里 親 開 拓 運 動 (愛 の 手 運 動)

(1) “あなたの愛の手を” の申込者状況

申込者数 < 第 1 表 >

年度		平 18	平 19	平 20	平 21	平 22	平 23	平 24	協会発足 以来合計
神 戸	市 内	5 3	7 2	7 7	5 6	1 0 0	1 0 9	7 1	6 7 7 8
	県 下	1 2 1	1 3 5	1 2 8	1 3 8	1 5 4	1 5 8	1 6 7	1 0 1 9 8
	その他	1 5	1 8	1 3	1 3	6	7	1 1	1 1 2 4
	計	1 8 9	2 2 5	2 1 8	2 0 7	2 6 0	2 7 4	2 4 9	1 8 1 0 0
大 阪	市 内	3 8	4 0	4 4	3 9	4 3	5 2	4 6	—
	府 下	5 6	6 0	5 3	4 8	4 9	7 0	4 8	—
		(3)	(8)	(1 0)	(2)	(4)	(5)	(8)	—
	その他	1 6 0	1 7 7	1 6 9	1 3 5	1 6 4	1 9 5	2 5 0	—
計	2 5 4	2 7 7	2 6 6	2 2 2	2 5 6	3 1 7	3 4 4	2 3 3 7 3	
合 計		4 4 3	5 0 2	4 8 4	4 2 9	5 1 6	5 9 1	5 9 3	4 1 4 7 3

神戸（神戸新聞・ラジオ関西）、大阪（毎日新聞大阪版・奈良版・京都版・滋賀版・和歌山版）における毎週 1 回の呼びかけに対する申込者数の状況は < 第 1 表 > の通りである。府下の（ ）書きは、堺市在住者。

(2) 家庭委託状況

平成 2 4 年度中に協会が取り扱った要養護児童の状況 < 第 2 表 >

		取 扱 児童数	取 扱 い 状 況						
			協 会 委 託	児相よ り委託	推 薦 中 面 会 中	実 引 親 取	里親探 し中止	適 任 者 な し	人 選 中
神 戸	愛 の 手 掲載児童数	5 5	2 2	1	6	1	5	2	1 8
	そ の 他 取扱児童数	2	2	0	0	0	0	0	0
	計	5 7	2 4	1	6	1	5	2	1 8
大 阪	愛 の 手 掲載児童数	8 6	1 7	4	3	0	2 6	4	3 2
	そ の 他 取扱児童数	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	8 6	1 7	4	3	0	2 6	4	3 2

平成 24 年度中に委託した児童の年齢と委託予定期間 < 第 3 表 >

年 令		0	1	2	3	4	5	6	10	13	計
期 間								～	～	～	
神 戸	養子縁組		3	6	1	2	3				15
	期間不定							2			2
	短期										0
	週末						2	2	2	1	7
小 計			3	6	1	2	5	4	2	1	24
大 阪	養子縁組	3	5	3	4	1		1			17
	期間不定										0
	週末里親										0
	小 計	3	5	3	4	1	0	1	0	0	17
合 計		3	8	9	5	3	5	5	2	1	41

(3) 協会発足以来、里親探しを行った児童の状況

昭和 37 年から協会が取り扱った児童の状況 < 第 4 表 >

現 在 の 状 況		神戸事務所	大阪事務所	合 計	
		S37～H25.3 月末	S39～H25.3 月末		
里 親 へ 委 託 し た 児 童	現在里親委託中	神戸市内	19	—	19
		兵庫県下	35	—	35
		大阪市内	—	5	5
		大阪府下	—	7	7
		堺市	—	0	0
		その他	2	11	13
	養子縁組が完了したもの		665	1035	1700
	就職および大学進学		120	30	150
	実親家庭へ復帰したもの		134	73	207
	事情があって里親から施設へ		88	93	181
	死亡したもの		3	0	3
	小 計		1066	1254	2320
	児童相談所から委託したもの		36	309	345
	週末里親へ委託中のもの		42	6	48
週末里親への委託完了したもの		78	52	130	
小 計		120	58	178	
未 委 託 児 童	現在児童相談所へ推薦中のもの	6	3	9	
	人 選 中	18	32	50	
	実親等の引き取りのため中止	264	294	558	
	里親委託方針の変更（施設）	402	635	1037	
	里親探し中に死亡	4	1	5	
小 計		694	965	1659	
合 計		1916	2586	4502	

協会が昭和 37 年以来（大阪は昭和 39 年以来）里親探しを行った児童の現状の内訳は < 第 4 表 > の通りである。

平成24年度 事業報告

— 神戸事務所 —

平成24年度は、愛の手運動が50周年を迎えたこともあり、秋にアメリカから里親・養子縁組のソーシャルワーカーであり、スーパーバイザーとして活躍していた尾崎京子さんを神戸に招き、3日間講演会等を開催することができた。また、特例法人から公益社団法人への移行申請の準備を行い、1月に内閣府より公益社団法人の認可がおりた。

I 里親家庭及び養育希望者のための研修とレクリエーション

養育希望者のための研修

里親や養親を希望する人たちのために今年度は次のような研修を行った。

里親認定のための研修

(1) 養育里親基礎研修

兵庫県と神戸市から委託を受け、基礎研修4回、認定前研修3回を実施した。基礎研修は、ビデオやパワーポイントを活用し、里親制度の基本的な意味と役割等について解説し、グループ討議などを行った。なお、養子縁組を希望する人たちにも社会的養護の重要性から、研修の受講をすすめている。

第1回	講義	平成24年4月21日(土) 神戸市総合福祉センター第1研修室	参加者 26人 (県19人・神戸市7人)
	実習	平成24年5月16日(水) 神戸真生塾・真生乳児院	参加者 29人 (県23人・神戸市6人)
第2回	講義	平成24年8月22日(水) 神戸市総合福祉センター第1研修室	参加者 25人 (県17人・神戸市8人)
	実習	平成24年9月19日(水) 神戸真生塾・真生乳児院	参加者 23人 (県17人・神戸市6人)
第3回	講義	平成24年10月20日(土) 神戸市総合福祉センター第1研修室	参加者 33人 (県26人・神戸市7人)
	実習	平成24年11月12日(月) 神戸少年の町・少年の町乳児院	参加者 29人 (県24人・神戸市5人)
第4回	講義	平成25年2月2日(土) 神戸市総合福祉センター第1研修室	参加者 25人 (県15人・神戸市10人)
	実習	平成25年3月6日(水) 神戸真生塾・真生乳児院	参加者 24人 (県12人・神戸市12人)

(2) 養育里親認定前研修

第1回	講義	平成24年6月2日(土)、3日(日) 神戸市総合福祉センター(1日目) 47人(県33人・神戸市14人) 第1研修室 (2日目) 48人(県34人・神戸市14人)
	実習	県下及び神戸市内の乳児院、児童養護施設で実施
第2回	講義	平成24年10月13日(土)、14日(日) 姫路市市民会館 (1日目) 14人(県11人・神戸市3人) 第1教室 (2日目) 15人(県12人・神戸市3人)
	実習	県下及び神戸市内の乳児院、児童養護施設で実施
第3回	講義	平成24年12月1日(土)、2日(日) あすてっぷKOBÉ (1日目) 34人(県27人・神戸市7人) セミナー室1 (2日目) 34人(県27人・神戸市7人)
	実習	県下及び神戸市内の乳児院、児童養護施設で実施

養子縁組を希望する人のための研修

養子を育てたい人のための講座

今年度は神戸、姫路、西宮で各1回、計3回開催した。

2日間のプログラムで構成し、1日目はビデオを見てグループ討議し、2日目は養親の子育て体験談を中心に、小グループに分かれて話し合いの時間をもった。講座への受講者募集は新聞やチラシによる広報の他、県下の市町の広報誌に掲載を依頼し、協力していただいている。

会場	場 所	日 時（各土曜日）	参加人数
神戸	神戸市総合福祉センター 第6研修室	平成24年7月14日・21日 13:30～16:00	11家庭 19人
姫路	姫路市国際交流センター セミナー室A/B	平成25年2月16日・23日 13:30～16:00	8家庭 13人
西宮	西宮市総合福祉センター 多目的ルーム/BIB2会議室	平成25年3月16日・23日 13:30～16:00	10家庭 17人
プログラム			
第1日目	ビデオの上映とグループ討議 パワーポイントを使って里親・養親を求める子どもたちの現況の解説		
第2日目	養親の子育て体験談 養親子関係を築くために考えておきたいこと（グループ討議） 養子を迎えるための手続き・養子制度の説明他		

里親家庭のための研修と支援

（1）里親のための子育て研修会

「保育ボランティア養成と家族支援講座」と里親研修をジョイントして、次のように2回実施した。

<第1回>

日 時	平成24年7月5日（木）10:00～12:00
場 所	神戸市総合福祉センター4階 第1研修室
テ ー マ	「子育てコーチング」
講 師	武田 建 氏（関西学院大学 名誉教授）
参加人数	69人（うち里親16人）

<第2回>

日 時	平成24年7月12日（月）10:00～12:00
場 所	神戸市総合福祉センター4階 第1研修室
テ ー マ	「子どもの気になる行動の理解と支援」
講 師	米山 直樹 氏（関西学院大学 教授）
参加人数	73人（うち里親18人）

（2）養子縁組制度の説明と懇談会

これから養子縁組の手続きを考えている養育中の里親を対象に「養子縁組制度の説明と懇談会」を下記のように行った。また、すでに縁組を行っている養親にも参加していただき、養育経験を語っていただいた。

日 時	平成24年1月24日（木）
場 所	神戸市総合福祉センター4階 第1会議室
参加者	27人

(3) 真実告知研修会

17回目となる今年度の真実告知研修会は「告知のはじまり—私たちの場合」というテーマで、最初に2人の養親から告知を中心に養育の話をしていただいた。1人は最近初めて告知をした経験を、もう1人は2人の養子を育てて20年余りになる養親から生命の授業などで問いかけられた課題などを話していただき、そのあと4つのテーマで4つのグループに分かれてそれぞれの考えを話し合ってもらい、グループで意見交換をし、協会でまとめを行った。他府県からも児童相談所職員、里親、里親支援専門相談員、施設職員など、いろんな立場の人の参加があった。

日時	平成24年3月24日(日)
場所	神戸市総合福祉センター 第1研修室
参加者	45人

(4) 「里親サロン」の開催

9年目になる里親サロンは1年間に延べ301人(里親184人、子ども117人)の親子が参加。サロンには欠かせない保育ボランティア26人に一時保育のご協力をいただいた。参加者は昨年より121人も増加したが、夏休み、クリスマス会、春休みなどに特に多くの親子の参加が多かった。

里親サロン開設月と参加人数

日 時	参加人数	日 時	参加人数
平成24年 4月	8人	10月	9人
5月	18人	11月	14人
6月	11人	12月	93人
7月	34人	平成25年 2月	21人
8月	34人	3月	47人
9月	12人		

里親家庭の親睦と交流

(1) 第44回ぼんぼこキャンプ

今年度は富山県の立山青少年自然の家で3日間テントでの宿泊となり、立山へバスで登ったり、プラネタリウムでの星の観察など、立山ならではのキャンプを楽しんだが、往復の時間がかかりかかるため、プログラムが制約を受けるなど、難しさもあった。

日 時	平成24年8月10日(金)～12日(日) 2泊3日
場 所	国立立山青少年自然の家(富山県中新川郡)
参加人数	64人

(2) 新春初笑い大会

午前中は「かざぐるま作り」と「メダル作り」を親子で行った。「かざぐるま」は東京の里親さんが東日本大震災の支援として岩手県に贈ったもので、神戸に材料をたくさん送って下さり、それを使って作成。午後にはかざぐるまを使ったゲームも行った。この初笑い大会を楽しみに他府県からも毎回親子での参加もあり、交流を深める貴重な機会になっている。

日 時	平成25年1月13日(日) 10:30～15:00
場 所	神戸市婦人会館 さくら
参加人数	104人

グループぽんぽこの活動

中・高校生の里子、養子及びボランティアを中心とした「グループぽんぽこ」の活動は以下の通り。

平成24年	8/2	キャンプの打合せと準備会
	8/10 ～12	「国立立山青少年自然の家」で開催された「第44回ぽんぽこキャンプ」への協力
	9/8	キャンプの振り返り会
	12/27	「新春初笑い大会」スタッフ打合せ
平成25年	1/5	「新春初笑い大会」の準備会
	1/13	「新春初笑い大会」への参加と運営協力（会場運営、司会進行他）
	3/30	「チャリティ映画会」への参加

II 季節里親・週末里親の促進事業

(1) ボランティア里親の募集と説明会

季節里親・週末里親を募るための説明会を11月に開催。プログラムは養護児童の現状についてパワーポイントで説明、ボランティア里親の意味や役割について話した後、週末里親さんから自身の活動について話していただき、参加者との意見交換を行った。説明会の後、希望者には受付面接を行った。

日 時	平成24年11月10日（土） 13:30～16:00
場 所	神戸市総合福祉センター 2階 第6研修室
参加人数	28人

委託・交流中の児童の状況（神戸事務所）

季節里親

年齢別 人数	幼児 (2～6)	小学生 低学年 (6～9)	小学生 高学年 (9～12)	中学生 (12～15)	高校生 (15～)	合計
夏 季	6	13	18	22	8	67
冬 季	7	11	21	21	9	69

夏季には67名の児童が59家庭に、冬季には69名の児童が62家庭に引き取られている。子どもの年齢内訳は上記の通りである。

1回の委託期間は、概ね5日～10日である。また、春休みや連休、旅行など里親家庭の家族行事に呼ばれている子どももいる。

週末里親

〈平成25年3月末〉

年齢別 人 数	幼児 (2～6)	小学生 低学年 (6～9)	小学生 高学年 (9～12)	中学生 (12～15)	高校生 (15～)	合計
	6	7	14	10	5	42

今年度末で週末里親に委託が継続されている児童は42人。年齢の内訳は上記の通り。中高生の場合は児童を中心に里親、施設等関係者の連携が大切である。

施設を退所等で週末里親との交流が終了した児童は3人である。

Ⅲ 子育て支援活動

(1) 子育てを楽しむ「親子講座」

「親子陶芸教室」

日 時	平成24年7月30日（月）午前10時～12時 8月27日（月） //
場 所	神戸市生涯学習支援センター(コミスタこうべ)3階
講 師	陶 芸 家 西 脇 正 明 氏 ゲーム指導 速 水 智 恵 氏
参加人数	7家庭 18人（うち、里親家庭の親子3組8人）

(2) 「子育てサポートグループぼちぼち」の活動

保育ボランティアの登録者と親支援プログラムの修了者で一時保育の相互援助活動を組織化し、一時保育つきのプログラムを提供している。

(イ) 一時保育活動

里親サロン、里親家庭のための研修、養育里親研修、保育ボランティア養成と家族支援講座、母親グループの座談会、子育て支援講座などで一時保育を実施し、協会がボランティアコーディネートを行っている。

(ロ) 「保育ボランティア養成と家族支援講座」の開催

保育ボランティアを募集・養成する目的と、里親家庭、地域の子育て家庭にも役に立つ知識を提供する目的とをかねて、協会と「ぼちぼち」の共催で今年度は7月に2回行った。

(ハ) 子育て座談会

数ヶ月に1回程度、育児中の母親が集まって近況や悩みなどを話し合う座談会を開催。

(ニ) ペアレントトレーニングアフターグループ

昨年度ペアレントトレーニングを受けたグループのフォローアップ研修を開催。10/12（金）

Ⅳ 50周年記念事業

神戸新聞とラジオ関西の協力で昭和37年にスタートした「愛の手運動」が50周年を迎え、記念事業としてニューヨーク市の里親・養子縁組機関（New Alternatives for Children、通称NAC）でスーパーバイザーとして勤務していた尾崎京子氏を神戸に招き、以下のような講演会等を企画、実施した。

(1) 里親制度をすすめるための講演とシンポジウム

日 時	平成24年11月18日（日）午後2時～4時半
場 所	あすてっぶKOBÉ セミナー室1, 2
プログラム	第1部 講演 「アメリカの子どもたちを支える里親たち」 講師 尾崎 京子氏 第2部 シンポジウム 「里親制度のこれから」 シンポジスト 尾崎京子氏 本多章浩氏（神戸市こども家庭支援課長） 芝野松次郎氏（協会理事長）
参加者	114人

(2) 「アメリカから学ぶ 里親養育の実際と支援の受け方」

日 時	平成24年11月23日（祝）午前10時～午後4時
場 所	神戸市総合福祉センター4階 第1研修室
プログラム	講演 「里親養育の実際と支援の受け方」 講師 尾崎 京子氏 意見交換会 午後1時～3時 交流会 午後3時～4時
参加者	53人

(3) 「アメリカから学ぶ 困難な課題をもつ子どもの里親養育～リクルートから委託後のサポートまで～」

日 時	平成24年11月24日（土）午前10時半～午後5時
場 所	神戸市勤労会館 5階大ホール及び講義室
プログラム	講演 「困難な課題をもつ子どもの里親養育」 講師 尾崎 京子氏 分科会①「里親養育におけるケースマネジメント」 報告者 尾崎 京子氏 分科会②「アメリカの里親子支援の実際」 報告者 桐野 由美子氏（京都ノートルダム女子大学教授） 全体会 分科会の報告と意見交換
参加者	89人

この記念事業は共同募金配分金により実施した。

V 里親・養子縁組相談支援事業

兵庫県より補助金を受けて、予期しない妊娠でとまどっている人たちを支援するための事業を行った。今年度は「兵庫県助産師会主催研修会」に於いて、神戸市、伊丹市、姫路市で参加者に「子育てサポートカード」を配布し、里親・養子縁組についての取り組みの講演を行ない、この事業の広報を行った。相談件数は多くはないが、受理した養護相談についてケースワーカーが面接、家庭訪問などの支援を行っている。

VI 広報活動

(1) 里親制度をすすめるための講演とシンポジウム

毎年一般市民を対象に開催しているが、今年は50周年記念事業の一つとして実施した。

日 時	平成24年11月18日（日）14:00～16:30
場 所	あすてっぶKOBE 2階 セミナー室1, 2
参加人数	114人
プログラム	第1部 講演／講師 尾崎 京子（「New Alternatives For Children」 前里親・養子縁組スーパーバイザー） 演題「アメリカの子どもたちを支える里親たち」 第2部 シンポジウム／テーマ「里親制度のこれから」 尾崎京子、本多章浩（神戸市こども家庭支援課長）、芝野松次郎 （家庭養護促進協会理事長）、橋本明（家庭養護促進協会事務局長）

(2) 子どもの日キャンペーン

5月5日子どもの日の神戸新聞朝刊1ページ県下版で35回目のキャンペーンを実施。今回は50周年を記念し「愛の手をつなぎ続けて半世紀」というキャッチフレーズに、10人の成人した里子や養子たちからのメッセージを載せた。この企画も高く評価され、神戸新聞広告賞（銅賞）を受賞した。協賛企業・団体 25社

(3) 写真とパネル展

平成24年12月13日～16日の4日間「ギャラリーメトロ」で愛の手運動の写真とパネ

ル展、チャリティバザー、児童虐待防止のオレンジリボンキャンペーン等を行い、啓発を行った。

(4) 里親出前講座

神戸市里親会有志が中心となって実施している「里親出前講座」を協会がコーディネートして、以下の大学等で行った。

武庫川女子大学、京都光華女子大学、神戸親和女子大学、頌栄短期大学、神戸あじさいライオンズクラブ、グループゆう

(5) 機関誌「育てる」No. 49を大阪事務所と3550部を7月に発行。(共同募金配分金事業)

(6) 機関紙「はーもにい」を7月、10月、12月にそれぞれ2900部発行。

(7) カラー刷啓発用チラシ「里親を必要としている子どもたちがいます」を5500枚刷増し、イベントや各研修会等で配布した。

(8) 「月刊神戸っ子」に1年間「里親ケースワーカーのちょっといい話」を連載した。

(9) 「望まない妊娠に関わる専門職研修会」に於いて、兵庫県内の養護教諭、助産師、保健師、保育士等を対象に3日間愛の手運動や里親制度の講義を行った。(11/23神戸市、11/30伊丹市、12/15姫路市)

(10) 「子ども支援者のための研修 第2回～里親支援」というテーマで岩手県陸前高田市役所に於いて、神戸での被災児童支援について報告と広報を行った。

(11) ベルギー、フランス、イタリア共同制作の映画「少年と自転車」の上映会場にパンフレット、チラシ等を置き、週末里親、里親制度の広報を行った。

(12) NTT電話帳「タウンページ」に「コメント5行広告」を1年間掲載した。(神戸市東部、中部、西部、兵庫県阪神南、中播磨、丹波版)

内容

- ・こどもの福祉／里親・養子縁組
- ・里親制度を知っていますか？
講座、研修会を開催しています。
- ・子育て相談、メール相談OK
- ・詳細は www5f.biglobe.ne.jp/~ainote/

(13) ホームページで協会の事業等を広報しているが、「とてもわかりやすい」「親しみやすい」との声があり、やはりホームページの広報は効果的であると感じさせられる。

(14) 他府県の里親研修や里親希望者の研修に講師として出講し、広報や交流につとめた。

Ⅶ 職員のための研修

次のような研修会に参加し、職員のための研修を行った。

- ①「北米YMCAのファンド・レイジングに学ぶ」(6/4 神戸YMCA)
- ②日本ソーシャルワーク学会研修会(6/8～10 横浜)
- ③近畿地区里親研修会(7/7 神戸市勤労会館)
- ④里親交流研修事業(第9回親子ふれあい交流会 10/27)
- ⑤兵庫県児童養護施設他合同研修会(1/29)

Ⅷ 活動資金を募るための活動

今年も活動資金を募るために他団体主催のバザーやフリーマーケットに出店し売上金は約84万円となった。また、個人や団体からも多くの寄付やバザー品が寄せられ、活動を支えていただいた。

5/5	神戸新聞紙上で第35回目の愛の手広告キャンペーンを実施	
5/19	神戸まつりの湊川公園「はっぴいひろば」バザー	95,020円
9/30	異人館の街に愛の調べin西神戸チャリティコンサート (神戸西かざみ鶏の館)	37,030円

10/7	尼崎市民まつりバザー	60,150円
10/7	健康福祉フェア（しあわせの村）	79,140円
11/8	神戸市手をつなぐ育成会「合同福祉バザー」	67,300円
12/13 ～16	「ギャラリーメトロ」チャリティバザー	298,967円
3/3	重心父母の会バザー	59,400円
3/30	チャリティ映画会バザー	13,030円

他に、お母さんたちのグループが「ハンドメイドチャリティーマーケット」を開き、自分たちの手作り作品を販売し、協会へ寄付していただいた。

なお、新しい試みとして、NPO法人ジャパン・カインドネス協会と大東化学（株）の協力で、大東化学明石工場と加西工場に設置している自動販売機に協会のステッカーを貼り、飲料1本の販売につき2円を協会に寄付していただく「ゆび募金」を始めた。

Ⅸ その他

- (1) 神戸新聞社より、愛の手運動が今年度に50周年を迎えたことの功績により「神戸新聞平和賞」が当協会に贈られた。
- (2) 公益社団法人への移行に向けて準備を行い、1月に内閣府より認定された。
- (3) オリックスの野球観戦、有馬温泉「兆楽」でのプールと入浴、兵庫芸術文化センターでの演劇の観劇、神戸港のクルージングなど、今年度も里親家庭へのご招待をいただき、家族で楽しむことができた。

平成24年度 事業報告

◇ 大阪事務所 ◇

I. 里親及び申込者のための研修と里親子のための親睦活動

【養子を育てたい夫婦のための連続講座】

申込者の高齢化が進むなか、初回来所から委託までの期間が短くならざるを得ないので、委託前にはできるだけ講座を受講するよう勧めている。大阪府下、近畿圏、協会経由で委託をおこなった近畿圏外の児童相談所にも案内を送付しており、児童福祉司のオブザーバー参加、不妊治療クリニックの職員や今年度より設置されている里親支援専門相談員のオブザーバー参加も増えている。

講座は、連続3回で土曜日13時30分から17時（最終回は17時30分）。のべ62組の受講者のうち、養親候補者として推薦したのは11組、調査検討中の者は5組である。児童相談所から勧められて講座を受講し、その後に地元児相からの紹介で子どもを受託している夫婦も増えており、協会の養親講座が事前研修の役割を担っていると思われる。

		第69回	第70回	第71回
日 時		6/2, 9, 16	10/13, 20, 27	3/2, 9, 16
場 所		大阪市立社会福祉センター会議室 他		
内 容	1 グループセッション	参加者と職員とのワーク		
	2 「養子里親の体験談」から	T夫妻	H妻	K夫妻
	3 「養子を育てること」とは・・・	岩崎 美枝子		
	参加者	25組	18組	19組
	オブザーバー参加者	8名	9名	3名

【成長した子どもからのメッセージ】

生後7カ月の時に養親に引き取られたM子さん（31才・女性）を話者として迎えた。養子であることは『こだわる』ことではない、今の両親が自分の『親』だから、と、明るくカラッと切り切ってくれたM子さんに、参加者も勇気づけられたようだった。

日 時 3月9日（土）10時～12時
場 所 大阪市立社会福祉センター第1会議室
参加者 25名（保育7名）

【里親子の親睦を深めるための活動】

(1) ふれあいキャンプ（於：尼崎市立美方高原自然の家「とちのき村」）

8月22日～24日 沢登りやツリーイング、野外炊飯、キャンプファイヤーなどを楽しんだ。
参加者 子ども22名、大阪南YMCA6名、協会5名

(2) 第13回 おやこDEうんどう会

11月3日（祝）、大阪市立長居小学校で開催。3年ぶりに一日中、晴天のもと運動場でおこなうことができた。成長した養子、これから養子を迎えようと考えている夫婦などを含む、17名のボランティアにお手伝いをいただき、スムーズな進行ができた。

参加者 41家庭（122名）、1施設（10名）、ボランティア17名、来賓・関係者10名

(3) JBクラブ

養（里）子を養育中の母親（父親）が、子ども連れで集える「ひろば」の開催を18年度より継続。月に1回（10時30分～15時）、主に就園前の幼児を養育中の養（里）親家庭が参加してくれているが、夏休みやクリスマス会は就園児の参加も多い。公益財団法人大阪コミュニティ財団ふれあい基金のご支援を受けておこなっている。

毎月1回、計11回開催（10月は遠足の予定であったが雨天のため中止）し、参加者はのべ118家庭。

(4) JBのOB会

開始からまる6年が経過し、JBクラブの「卒業生」の数も増えた。夏休みや冬休みには顔を見せられることも多く、子どもを迎えたばかりの養親にとっては、先輩養親と交流する貴重な機会にもなっていた。しかし、最近ではJBクラブの参加者に0～1才の低年齢児も増えたことや、「卒業生」

の年齢があがり、エネルギーが高くなったことで、同じ場所で遊びを共有することが少し難しくなってきたため、昨年度より夏休みの企画として、小学生以上の養子・里子と保護者を対象に実施。7月30日に実施し、10家庭の参加があった。

(5) エリカの会

小学校入学前や既に小学生になってからの高齢での委託を受けた養親を対象に企画し、まる4年が経過した。新メンバーが加わることがあまりないため、育てている子どもが小学校高学年になっている養親も多く、委託当初の悩みの共有といった色合いからは少し変化をしている。

第1回 7月4日 参加者4名 協会4名

第2回 2月21日 参加者5名 協会4名

【児童相談所里親担当者会議の開催】

大阪府・市の子どもを委託したことのある全国の児童相談所によびかけての里親担当者会議は、今年で24回目となった。例年通り2日間の日程を組み、1日目を研修会、2日目を学習会とした。また、1日目の夜には交流会をおこなった。

日 時 2月7日(木) 研修会 13時30分～17時30分

交流会 18時～21時

2月8日(金) 学習会 9時30分～12時

場 所 大阪市立社会福祉センター 第1会議室

内 容 1日目 「高齢児の里親委託を考える」

体験発表 辻 晃 氏 (大阪府・養育里親)

「各所報告：高齢児の里親委託の現状、成功事例、失敗事例について」

2日目 「週末里親～家庭養護促進協会18年の活動から見える課題～」

家庭養護促進協会大阪事務所 職員

参加児相 福島県中央、埼玉県川越、南、さいたま市、千葉県君津、横浜市西部、南部、浜松市、愛知県中央、西三河、名古屋市中央、西部、長野県中央、三重県北勢、中勢、児童相談センター、京都府家庭支援総合センター、宇治、福知山、奈良県中央、高田、兵庫県西宮、川西、神戸市、岡山市、徳島県中央、愛媛県中央、高知県中央、福岡県福岡、北九州市、大阪府中央、池田、吹田、東大阪、富田林、岸和田、堺市、大阪市

1日目 38児相(47名) 2日目 28児相(34名)

II. 里親制度に関する広報活動

【機関紙・誌の発行】

(1) 月刊紙「あたらしいふれあい」の発行

大阪府共同募金会の配分金をいただき、3,500部を印刷し、約3,000部発送。表紙のカット、発送作業のすべてにボランティアの協力を得て、毎月の発行を継続している。

(2) 年刊誌「育てる」の発行

No. 49を大阪・神戸事務所あわせて3,550部発行。大阪事務所では、会員、関係機関等に1,850部送付している。

【一般向けチラシ・冊子等の作成】

(1) 広報用ミニカード(増刷): 1,500枚

→郵便局広告を活用し、大阪府内31局の窓口には11月～1月の間設置

(2) 協会リーフレット(増刷): 2,000部

(3) 会員になってくださいリーフレット(増刷): 1,000部

(4) 絵本「ふたりのおかあさん」(初版第3刷): 1,000部

(5) 週末里親広報用チラシ(増刷): 5,000部

(6) 週末里親のしおり(新規): 300部

【週末里親制度説明会】

『週末里親ってなあに？』と題して、説明会を開催した。これまでは週末里親を取り上げた番組のDVDを観てもらふことなどが多かったが、初めての試みとして、実際に週末里親として活動しているご夫婦に、担当職員によるインタビュー形式で体験発表をしていただいた。机を口の字型に並べ、参加者との意見交換をしやすい形にした。参加者のうち、説明会終了後1カ月の間に4家庭の登録があった。個別相談ほど敷居を高く感じずに参加できるこのような形式での説明会を定期的におこなうことで、週末里親制度の周知、新規登録者の増加につなげられるのではないかと感じている。

日時 3月16日(土) 10時～11時
場所 大阪市立社会福祉センター第1会議室
内容 ①大阪市週末里親制度についての説明
②週末里親体験発表(大阪市S夫妻)
参加者 17家庭24名、里親支援専門相談員2名

【愛の手街頭キャンペーン】

里親制度や協会活動の広報のための街頭キャンペーンには、平成6年度から大阪曽根崎ライオンズクラブのご支援を得ている。この活動はクラブの奉仕活動として位置づけ、取り組んでいただいている。5月17日と10月4日にJR大阪駅前で開催した。協会活動の趣意書をつけた玩具(2回であわせて3,000個)を歩行者に配布し、里親制度及び協会活動の広報をおこなった。玩具の仕入れ代とチラシ作製費の101,660円を、大阪曽根崎ライオンズクラブより寄付として受領した。

【里親いろいろ応援団】

大阪市里親施策推進プロジェクト会議の活動の一環として、平成21年度より市民ボランティア「里親いろいろ応援団」が結成され、協会が事務局となって活動をおこなってきたが、平成23年度より、応援団メンバーの中で世話人を決め、応援団の自主的な活動に近づけていくことを目指している。

5月25～27日に、イオンモール鶴見緑地にて、「里親応援フェスタ」を開催し、イベントスペースで里親体験発表、里親制度説明、DVD上映、コーラス、大道芸等をおこない、また、エスカレーター横の人通りの多い場所でバルーンアートをおこなって客の関心を引き、里親制度の広報チラシ、風船などを配布した。

12月2日には、鶴見区民センターにて、『里親応援フェスタ～歌と名画とおしゃべりで知る里親制度』と題して、週末里親の体験発表、コーラス、映画「少年と自転車」の上映をおこなった(参加者125名)。その他、大阪市子ども相談センター等が主催する里親広報イベント等の際にもチラシ配布、当日スタッフとして協力している。

【毎日新聞その他による報道記事】

12. 5. 27 「里親制度を知って 家庭養護促進協会と曽根崎LCがPR」(毎日)
6. 10 「こどもの心に寄り添う この3冊 藤林 武史・選」(毎日)
10. 5 「里親制度周知へ 大阪駅前で開催 家庭養護促進協会など」(毎日)
11. 27 「養母への詩が合唱曲 里親制度へ理解求め披露 来月2日鶴見区応援フェス」(毎日)
12. 27 「感謝 チャリティオークション 収益173万円に 家庭養護促進協会などに寄託」(毎日)
13. 1. 9 「今宮戎周辺で『福あめ売り』 家庭養護促進協会」(毎日)
3. 8 「『週末里親』ってなあに？」(朝日)
3. 10 「体験談交え説明会 週末里親制度 16日天王寺区で」(毎日)
3. 10 「『週末里親』説明会 16日 大阪で」(読売)

【各地・各団体での講演会等で講師として活動の紹介等をした】

12. 4. 1 ザ・淀川主催座談会「虐待、もうこれ以上ほっとかれへん！みんなで語りあい、形にしてゆこう～地域が見せる底力」にパネリストとして(岩崎)
6. 5 福岡市平成24年度里親ステップアップ研修(岩崎)
6. 6 北九州市里親会研修(岩崎)
8. 19 映画『隣る人』(第七芸術劇場)監督とのトークショー(岩崎)
9. 4 弘済のぞみ園みらい園職員研修(以後、月1回ペースで5回)(岩崎)
9. 11 平成24年度第1回児童福祉司及び措置担当部門別研修会(於：茨城県水戸市)(岩崎)

- 10. 6 第58回全国里親大会やまがた大会に分科会助言者として（岩崎）
- 10.10 愛知県里親・児相職員研修会（岩崎）
- 10.14 第31回不妊カウンセラー・体外受精コーディネーター養成講座（岩崎）
- 10.15-6 H24年度小舎制養育研究会総会研修会第34回京都大会に講師、助言者として（岩崎）
- 10.26 京都市西京区民生児童委員研修会（山上）
- 12. 5 四恩学園乳児院職員研修（田邊）
- 12. 8 みんなくワールドシネマ『少年と自転車』で映画解説（岩崎）
- 12.15 武庫川女子大学教育研究所臨床教育研究懇談会（山上）
- 12.18 京都保育福祉専門学院（岩崎）
- 13. 1.30 新天地育児院（岡山県）職員研修（岩崎）
- 2. 2 宮崎県中央里親会研修会（岩崎）
- 2.19 社会福祉主事資格認定講習会（岩崎）
- 2.23 養子と里親を考える会創立30周年記念第115回研究会（岩崎）
- 3. 3 しろきた市民セミナー「大阪市 里親ってなあに？」の企画、映画『冬の小鳥』上映会にてミニ解説（山上）
- 3.10 同上、ドラマ『ありがとう、オカン』上映会にてミニ解説（和田）

Ⅲ. 広報と活動資金獲得のための活動

【えべっさん飴売り】

例年通り、下記のようにおこなった。飴の業者の都合で種類や数も十分な仕入れができない状況がここ数年続いており、今年も、協会の支援者である向井珍味堂のご協力を得て、福豆をあわせて販売した。また、昨年より仕入れを始めた「七福神キャンディ」「七福神チョコボール」の仕入れ数を増やし、好評を得た。今年も3日間でのべ84名のボランティアさんにご協力いただいた。協会の活動紹介と支援依頼文を印刷したチラシを入れて広報活動もおこなっている。

日 時 1月9日～11日
場 所 今宮えびす神社
純 益 907,721円
チャリティボックスへの寄付 120,393円

Ⅳ. 研修活動

【職員のための研修】

- 12. 4. 1 ザ・淀川主催座談会「虐待、もうこれ以上ほっとかれへん！みんなで語りあい、形にしてゆこう～地域が見せる底力」（山上・中島）
- 5. 4-6 修復的愛着療法ワークショップ（於：埼玉）（和田）
- 6.23 養子と里親を考える会第113回定例会（岩崎）
- 7. 7 近畿地区里親研修会（於：神戸）（広瀬）
- 7.10 PCA公益法人移行事務研修会（和田）
- 7.28 大阪弁護士会春秋会研修委員会主催ドキュメンタリー映画『うまれる』上映会と豪田トモ監督の講演会（岩崎・山上・和田）
- 8. 3 ネットワーク型市民セミナー「はじめませんか！里親」第1回にスタッフとして（山上・中島）
- 8.10 同上、第2回にインタビュアーとして（田邊・和田）
- 8.17 同上、第3回にインタビュアーとして（岩崎）、スタッフとして（山上）
- 9.22-23 修復的愛着療法継続研修（於：大阪）（岩崎・和田）
- 10. 6- 7 第58回全国里親大会やまがた大会（山上・和田）
- 11.17 大阪府課題別研修・ライフストーリーワーク（山上・田邊）
- 11.17 修復的愛着療法継続研修（於：名古屋）（岩崎・和田）
- 11.18 神戸事務所愛の手50周年記念事業「アメリカの子どもたちを支える里親たち&里親制度のこれからを考える」（岩崎・山上・和田）
- 11.23 同「里親養育の実践と支援の受け方」（岩崎・田邊）
- 11.24 同「困難な課題を持つ子どもの里親養育～リクルートから委託のサポートまで～」（岩崎）

・中島・広瀬)

- 12.12 公益法人のためのPCAカンファレンス2012セミナー (和田)
12. 2.14 大阪府社会福祉協議会従事者部会主催平成24年度第3回集団指導者養成教室(山上・中島)
2.23 養子と里親を考える会創立30周年記念第115回研究会 (広瀬)

【専門職・里親・養親のための研修】

テリー・M・リヴィー心理学博士とマイケル・オーランズ臨床心理士を講師として、ヘネシー澄子氏を通訳として招き、講演会『癒しの親になる～里親と養親家族で安定した愛着を築くため～』を開催した。

日時 5月11日(金) 13時30分～17時
場所 大阪府教育会館 たかつガーデン
参加者 109名

V. ホームページ関連

平成11年3月にホームページを開設、22年度より新たに作り替え始めていたページを更新し、新ページへとほぼ移行が済んだところである。新・旧両ページの開設以来のアクセス数の合計は47万件を越えた。インターネットが情報収集の際の材料となる傾向はますます深まっており、さらに中身を充実させる必要があると考えている。

10月より、大阪事務所のFacebookページを開設し、日々の活動について更新したり、イベントや研修会などのお知らせ、「愛の手」の新聞記事へのリンク等に活用している。

→ <http://www.facebook.com/ainote.osaka>

あわせて、ブログ「ワーカー日記」のページも変更した。→ <http://atafure.blog.fc2.com/>

ホームページを通じての今年度の書籍購入は73件130冊。会員入会は5件であった。

メール相談については、以下のとおり。開設からの累積受付件数は1,211件となった。メール相談を通じて来所につながった養子縁組希望者が4件、週末里親希望者が5件あった。

【地域別】

大阪府下	17
近畿圏内(大阪府を除く)	9
近畿圏外	18
海外	1
不明	17
合計	62

海外：中国

【相談者の年齢】

10代	0
20代	2
30代	14
40代以上	18
不明	28
合計	62

【相談内容】

養子を育てたい	32
里親一般について知りたい	5
縁組・入籍等の手続きが知りたい	3
週末里親について知りたい、やりたい	12
国際養子について知りたい	2
養子になりたい、里親を探してほしい	2
養育相談	2
その他	4
合計	62

*メール相談を通じて来所
養子縁組希望 4件
週末里親希望 5件
その他 2件

VI. 相談事業

【血のつながらない親と子のためのホットライン】

平成11年度から、全国里親会より「里親養育電話相談事業」として3年間のモデル事業としてスタートしたが、その委託期間が終了してからも、協会の事業として「血のつながらない親と子のためのホットライン」として事業を継続している。

(相談電話専用番号：06-4304-1085 月～金 11:00～17:00)

本年度の相談の現状については以下のとおり。

【相談者】

里親	5
里子	0
養親	24
養子	0
里親希望者	0
継父	0
継母	0
継子	0
実父	0
実母	0
その他	1
合計	30

【地域別】

大阪府下	6
近畿圏内	16
近畿圏外	7
不明	1
合計	30

【相談内容】（重複あり）

養育上の問題	18
人間関係上の問題	5
制度上の問題	3
性について	2
その他	2
合計	30

【男女別】

男	8
女	22
不明	0
合計	30

【愛の手相談室】

「縁組後のアフターケア」は、思春期の子どもを持つ養親からの相談、養子自身からのルーツ探しなどの相談が見られる。「縁組後のアフターケア」は来所による相談のみ計上し、電話による相談はホットラインの相談件数に挙げている。

相談内容	件数	備考
養護相談	4	
養育相談	1	
縁組後のアフターケア	20	思春期、非行、ルーツ探し等
継続相談	1	
その他	6	
合計	32	

【APCC（思春期妊娠危機センター）】

相談件数は減少傾向にあるが、毎年度、妊娠にまつわる相談は全件の50パーセント前後を占めるといふ傾向は変わらない。（相談電話専用番号：06-6761-1115 月～金 10：00～17：00）

【受付件数】 オープン後からの累積受付件数は、6,516件
本年度の相談件数は、以下のとおり。

相談内容	件数	相談内容	件数
妊娠にまつわるもの	11	性病	0
人間関係の悩み	1	近親姦	0
自分の身体の悩み	5	How to Sex	0
マスターベーション	5	養子縁組	0
避妊法について	0	その他	5
同性愛	0	合計	27

Ⅶ. 「ふれあいの家」活動

現在閉鎖中で、平成16年3月に「社会福祉法人そうそうの杜」と新たに賃貸契約を結び、知的障害者の生活支援のためのグループホームとして貸与している。

Ⅷ. 大阪市週末里親開拓事業

平成6年7月から、大阪市より委託された事業であり、19年目を迎えた。今年度は20名の児童の新規登録があった。うち6名が活動を開始し、2名は施設へ推薦中である。1名は大阪府へケース移管となったため大阪府の週末里親制度でマッチングを検討、1名は養子縁組を検討、1名は養育里親を検討するため保留、9名を引き続き探す。里親登録者の受入希望児童の年齢が小学低学年以下や女兒に偏りがちであるため高齢児は決まりにくく、また、発達の遅れや発達障害がみられる子どもは紹介してみても引き受けていただけないことも多く、決まりにくい状況にある。昨年度未委託であった10名のうち5名が活動を開始した。残りの5名のうち、1名は実親の関わりができ、1名は措置変更のため中止、1名は実親の同意確認のため保留、引き続き週末里親を探す児童は2名である。

未委託の登録里親については、里親が希望する年齢や性別、距離等があわず、待たせてしまっている場合もある。新規の希望があっても、実子の年齢が小さいなどの理由で、すぐに登録してもらうこ

とは難しい場合も多い。今年度は来所して申込書を提出した14家庭のうち12家庭が登録した。より広く里親家庭を募り、マッチングまでつなげていく必要がある。協会外の里親（制度開始以前から活動中の里親、施設職員、施設が独自に開拓した里親）は委託里親数77名、委託児童数87名となっている。

〈週末里親開拓〉

	24年度	累計
電話等問い合わせ件数	37	1401
申込書提出件数	14	449
登録件数	12	355
調査件数	11	162

〈平成24年度活動状況〉

里親数		委託数	解除数	25年度へ継続
	24年度中に新規委託	10	1	9
	23年度以前からの委託継続	34	3	31
	合計	44	4	40*

児童数		登録	中止	委託数	解除数	25年度へ継続	未委託
		24年度中に新規登録	20	1	6	0	6
	23年度以前に未委託	10	2	5	1	4	3
	23年度以前からの委託継続			35	3	32	
	合計			46	4	42*	16

*数が一致しないのは1名の里親に2名の児童がマッチングがされている里親が2組いるため

〈委託解除された子どもの理由内訳〉

委託解除理由	24年度	累計	委託解除理由	24年度	累計
実親引き取り	1	14	施設措置解除	0	25
養子里親委託	1	15	施設措置変更	0	5
養育里親委託	1	10	府へケース移管	0	2
里親の都合	0	18	その他	1	2
里親子関係悪化	0	28	合計	4	119

【週末里親懇談会】

(1) 9月8日（土） 10時～12時（対象：里親、施設職員）

例年9月と4月に懇談会として里親同士の交流の場として開催していたが、週末里親を希望する子どもたちの背景も複雑になり、週末里親も様々な知識を持って子どもに対応をしていかざるをえなくなってきた。そのため、年1回は「研修会」の形で実施することにし、今回は社会的養護出身の若者の自助グループCVVのメンバーに、自分の生い立ちから施設で暮らす中で何を感じてきたのかを話していただいた。施設より自立し、社会で懸命に生きる話者の姿に皆感動するとともに、実際に里子の将来を心配されている週末里親にとっては、里子の将来を少し具体的にイメージすることができたという感想もあり、有意義な会になった。

参加数 里親23家庭29名、施設職員11カ所15名、大阪市こども相談センター1名

(2) 4月20日（土） 午後1時半～4時（対象：里親、施設職員）

後期の懇談会は3月末まで謝礼金を配付する目的も兼ね、4月に実施している。今回は例年通りの「懇談会」スタイルで、里親同士の体験の場を設定した。参加者の方が多く、里子の年齢が小学生以上の里親がほとんどだったので、3グループに分かれ、話し合いをおこなった。

毎回参加している里親も多かったが、最近活動をはじめた里親もあり、里親同士で経験を共有したり、アドバイスしあったりするなど、活発な意見交換がなされた。また施設職員から里親への対応についての相談等があり、里親から施設や職員に対しての思いを伝えられることで、施設職員にとっても今後の里親との関わりの参考になって良かったという感想もあった。毎回、里親、施設職員、児相職員が集まり、お互いの活動を話し合い、共有できる有意義な会になっている。

参加数 里親22家庭31名、施設職員14カ所21名、大阪市こども相談センター1名

Ⅸ. 大阪市よりのその他の委託事業

【大阪市里親制度普及促進事業】

平成24年度より公募事業となり、委託事業者としての選定を受けた。これまでおこなってきた、愛の手運動による里親の開拓、養親子のアフターケア、研修等はこの事業に含まれる。

また、認定前研修の講義の企画、運営、施設実習における事務処理等をおこなっており、認定前研修については基本的に府市合同でおこなっている（内容については次項）。

Ⅹ. 大阪府里親支援機関業務

平成20年10月に大阪府より里親支援機関としての業務委託を受けた。

業務内容は、里親制度の普及啓発、里親研修、里親委託推進のための相互交流、施設入所児童を対象とする週末里親事業の実施等である。

【里親制度普及促進事業】

〈里親希望者への研修〉

◆基礎研修（講義・演習、施設見学）

日時	①H24. 4. 29 ②H24. 6. 25 ③H24. 8. 22 H24. 11. 26 ⑤H25. 2. 25 10:00～17:00
場所	①②⑤ 子供の家 ③④ 和泉乳児院・幼児院
内容	・講義「子どもの発達」こころみカウンセリングセンター 西部 美志氏 ・講義「子どもの医療と保健」 子供の家主任：大森 啓代氏 和泉乳児院主任：山本 泰美氏 ・講義と施設説明 子供の家施設長：舟木 康二氏 和泉乳児院・幼児院施設長：栗延 雅彦氏、大橋 和弘氏 ・施設見学 ・グループ討議
参加者	① 8名 ② 20名 ③ 19名 ④ 18名 ⑤ 15名 養育22組 養子20組 ファミリーホーム2組

◆認定前研修Ⅰ・Ⅱ（大阪市と合同）

日時	①H24. 5. 20/5. 26 ②H24. 9. 1/9. 15 ③H25. 1. 19/2. 2 13:00～17:00
場所	大阪市立社会福祉センター、大阪市こども相談センター
内容	Ⅰ・講義「里親養育の様々な課題」 家庭養護促進協会 岩崎 美枝子 ・演習「子どもを引き受けたら何が起こるか」 同上 Ⅱ・講義「里親養育、最低基準」 ①和田 静 ②吉川敬子 ③田邊敦子 ・講義「子どもの権利擁護」 弁護士 西村 英一郎 ・先輩里親経験談 大阪里親連合会 ①吹田支部 内藤善邦氏 ②池田支部 鷺島実氏 ③中央支部 栗川修也・みさえ夫妻
参加者	①15名/14名 ②29名/26名 ③18名/18名 養育21組/19組 養子14組/11組 ファミリーホーム1組/2組

◆認定前研修（実習）

日時	H24. 4～H25. 3
場所	乳児院3カ所 児童養護施設8カ所
参加者	養育28名（15組） 養子30名（15組）

◆専門里親養育研修（実習）5名が受講し、4名が受講及び施設実習終了

日時	H25. 1～H25. 3
場所	児童養護施設4カ所
参加者	4名

◆専門里親継続研修

日時	①H24. 11. 17 13:00～17:00 ②H24. 11. 22 13:00～16:00
場所	①大阪市立社会福祉センター ②東大阪子ども家庭センター
内容	①講義と演習 「子どものライフストーリーワーク」 帝塚山大学心理福祉学部教授 才村 眞理氏 ②・講義「家庭養護の推進～社会的養護の課題と将来像より～」 厚生労働省 児童福祉専門官 太田 真実氏 ・講義「非行少年の理解と対応」 弁護士 浜田 真樹氏 ・事例検討とグループ討議
参加者	8名

まとめ

- ・基礎研修受講者が44組（養育22、養子20、法人型ファミリーホーム2）と昨年度に続き多かった。
- ・今年度から基礎研修に「子どもの医療と保健」を追加している。
- ・認定前研修の講義は府市合同で実施。府は養子里親にも同研修を案内、市は全員に受講を義務付けており、同研修の受講者が増えている。
- ・施設実習については里親支援専門相談員が配置されている施設に依頼。
- ・専門里親養育研修に5名が希望し、4名が受講及び施設実習を修了した。

【里親委託推進・支援等事業】

(1)会議への参加

◆里親委託等調整委員会（代表者会議）

日時 ①H24. 8. 31 ②H25. 3. 25

内容 ①・平成24年度における取り組みの中間報告 ・今後の取り組みについて
②・平成24年度里親委託推進事業について ・平成25年度里親委託推進事業について

◆里親委託等推進委員会地域委員会

日時 ①H24. 10. 18 北部委員会 ②H24. 10. 30 南部委員会

内容 北部・南部各地域における里親委託の現状と課題についての情報提供及び意見交換

◆里親委託等推進連絡会（実務者会議）

日時 ①5/8 ②6/12 ③9/10 ④10/17 ⑤1/22 ⑥2/19 ⑦3/19

内容 情報や課題の共有、及び課題解決に向けた協議等をおこなう。9月からは施設に配置された里親支援専門相談員も参加し、里親委託を検討する子どもや施設実習のあり方について話し合った。

(2)相互交流事業

◆新規委託里親研修

子どもの委託後1年未満の里親に集ってもらい、情報交換や日頃の悩みを出しあい、意見交換や先輩里親からの助言を受けた。

日時	H25. 2. 16 13:30～16:00
場所	大阪市立社会福祉センター
内容	先輩里親の体験談 大阪府里親連合会 東大阪支部 辻 晃氏 富田林支部 蓮本絹子さん
参加者	養育里親8名（6組） 養子里親10名（6組）

◆課題別研修

①講演会(大阪府里親会、キアセット、リーフ、LLCみらい、府市施設部会と共催)

日時	H24. 5. 11 13:30～17:00
場所	たかつガーデン
内容	「癒しの親になる」：テリー心理学博士、マイケル臨床心理士、ヘネシー澄子氏
参加者	大阪府関係12名（全体109名）

②講義(大阪市と合同)

日時	H24. 9. 22 10:30～15:30
場所	大阪市こども相談センター
内容	「子どもの発達について」 午前：思春期 午後：発達障がい こころみカウンセリングセンター 西部 美志氏
参加者	府里親 午前11名 午後12名

③講義と演習(大阪市と合同)

日時	H24. 11. 17 13:00～17:00
場所	大阪市立社会福祉センター
内容	講義と演習 「子どものライフストーリーワーク」 帝塚山大学心理福祉学部教授 才村 真理氏
参加者	府里親 21名(うち8名は専門里親)

(3)里親会主催「親と子の夏季宿泊研修」への参加

日時 H24. 8. 18～19

場所 淡路島・琴平方面

内容 1日目 体験発表とグループ討議 2日目 八島見学、ワールドパークONOKORO等

参加者 73名(子ども29名)

(4)地域シンポジウム(相談会)

センター名	日時	場所及び内容	参加者数
池田	①H24. 5. 27	①サンシティ池田	①38名
	②H25. 1. 27 10:00～12:00	②豊中ルシオーレホール 里親体験発表、施設経験者発表、相談会、	②55名
東大阪	H24. 7. 14 13:30～16:00	八尾プリズムホール 里親、里子、施設出身者の体験者、里親相談会	108名
岸和田	H24. 10. 28 13:30～	岸和田浪切ホール 相談会	19名 (13組)
中央	H24. 11. 4 8:00～	淀川河川公園 淀川市民マラソンへの参加、啓発カードの配布	
富田林	H24. 9 ～H25. 3	管内市町村で里親相談会 9/23 河内長野市 10/16 藤井寺市 11/17 松原市 12/12 河南町 1/23 羽曳野市 2/13 大阪狭山市 3/5富田林市	17名 (14組)
吹田	H25. 3. 3 13:30～16:00	摂津市コミュニティプラザ 体験発表、講演、相談会	61名

(5) 大阪府里親シンポジウム

日時 H24. 12. 8 13:30～16:00

場所 布施リージョンセンター

内容 里親の体験発表、里子からのメッセージ、相談会

参加者 197名

【週末里親事業】

①活動実績 22施設 児童64名 のべ570回 1268日

24年度中の対象児童数 24名 うちマッチング 19名

同対象週末里親希望者 54組 うちマッチング 18組

②大阪府週末里親懇談会の実施

週末里親に集まってもらい、活動の様子や日頃感じている悩みについて、情報や意見を交換した。

日時：H24. 6. 30 参加者：週末里親 7組9名 施設職員 9名

③夏季・冬季2泊3日里親事業実施

長期休暇中、家庭に帰れない子どもを対象に、待機となっている週末里親希望者の中から協力者を

募り、2泊3日の家庭生活を体験することを目的として実施。対象児童については、子ども家庭センターと施設で協議。

	協力家庭数	候補児童	マッチング数 () 内は家庭数	うち週末へ移行
24 夏季	16	17	12 (10)	5 (4)
冬季	11	14	9 (7)	8 (7)

X I. その他の活動

◆新聞社等マスコミからの取材に対応した。

12. 4. 13 NHK大阪放送局小田部カメラマン 週末里親取材協力依頼
4. 14 同カメラマン 大阪市週末里親懇談会にオブザーバー参加及び取材
5. 1, 18, 21 NHK大阪放送局報道部井上記者、八幡ディレクター 『かんさい熱視線』取材
5. 21 読売新聞増田記者 里親制度について
7. 4 読売新聞東京本社鈴木記者 養子縁組制度について
8. 7 NHK大阪放送局八幡ディレクター 『かんさい熱視線』及び再編集番組製作にあたり、継続取材 (以後、9/10, 11/13, 11/28, 12/3にも来所)
8. 28 大阪ボランティア協会増田氏 情報誌「V o l o」取材
9. 19 同上
10. 2 月刊福祉 インタビュー記事取材
11. 6 毎日新聞社会部平川記者 里親応援フェスタについて

◆協会活動や里親制度等について知るために以下の人々の訪問があった。

12. 5. 2 厚生労働省専門官の太田氏
5. 15 NPO法人さつきフォスターファミリーの森川氏、宮脇氏、嶋津氏
8. 7 大阪市立大学法学部3回生の茨木さん、太田さん、尾花さん
8. 9 いきいきつながる会の石川氏
9. 6 立教大学コミュニティ福祉学研究科博士前期課程1年の下村さん
9. 13 聖学院大学大学院の松田さん
10. 2 NPO法人子どもの村Kyotoの石原氏、他5名
10. 22 梅花女子大学の坂本先生、北翔大学の尾形先生
11. 29 会員の宮崎さん
13. 2. 13 大阪上本町六郵便局の西島局長

◆以下の企業や団体が愛の手運動のためにという趣旨でイベント等を企画し、その収益を活動資金等として寄贈いただいた。いずれの場合も、単にご寄付を受けたということだけではなく、愛の手運動のPR活動としての効果もあり、感謝している。

- *毎日新聞社会部愛の手運動歳末オークション (1,351,236円)
- *毎日新聞大阪社会事業団よりふれあいキャンプ助成金 (180,000円)
- *大阪南YMCAよりふれあいキャンプ援助金 (バス代として) (97,250円)
- *大阪さくらライオンズクラブチャーターナイト9周年 (30,000円)
- *南大阪みささぎライオンズクラブ (44,500円)
- *大阪曾根崎ライオンズクラブ1月例会里親キャンペーン (100,000円)
- *大阪府宅地建物取引業協会チャリティゴルフ大会、チャリティボウリング大会の収益金 (417,234円)
- *東大谷高校生徒会より文化祭での収益金 (5,000円)
- *東和総合サービスよりバザー収益金 (39,110円)
- *第一工芸(株)社内イベント収益金 (17,000円)
- *たまりコーダー教室 (チャリティコンサート収益) (36,100円)
- *向井珍味堂歳末寄付 (15,830円)
- *医療法人聖クリニックより木製玩具
- *株式会社泉州より雑貨多数

- ◆ニッセイ財団「広がれ、元気っ子活動」児童・少年の健全育成助成として、総額49万円の玩具（ドールハウス、木製レール&機関車、メンタルロボットパロ）の贈呈を受けた。
- ◆府子ども家庭センター里親担当者会議に出席し、大阪府子ども家庭センター、大阪市こども相談センター、堺市子ども相談所との連絡調整に努めた。
- ◆NHKに取材協力していたものが、かんさい熱視線「“家族”がほしい ～養子縁組望む子どもたちは今～」（6月1日）、「パパとママがほしい～大阪・乳児院の日々～」（8月23日）、同番組を追加取材・再編集したものの全国放送（12月16日）として放送された。
- ◆毎日新聞書評欄『この三冊』に、福岡市こども総合相談センター所長藤林武史氏により、絵本「ふたりのおかあさん」が紹介された。掲載後、購入に関しての複数の問い合わせがあった。